

災害は忘れた頃に やってくる

陸上自衛隊奄美警備隊、喜界島通信所、ジオパーク職員、名瀬測候所、上嘉鉄地区消防団、喜界消防分署が参加し、（上嘉鉄地区）防災訓練実施

浦原、先山集落において、11月3日（金）地震・津波を想定した防災訓練を実施した。マグニチュード8.2、震度7を想定したもので、一時避難所（浦原、先山高台）への避難及び確認の後、浦原農村公園に集まった。農村公園では、ジオパーク関係者の講話があり、「6万年と8万年前にできた段丘の下に広がる集落」と題して、その下にある島尻層群ができた仕組みを説明。**大きな地震の際は崩れやすいので十分注意してほしい**と危険性を話した。

また、名瀬測候所職員による講話があり、津波の注意点や、過去の喜界島の津波被害、地震発生から津波警報等の発表の流れを説明。**津波が見えてから避難しても間に合わない。周辺の地形により反射や屈折が起きることで繰り返し襲ってくる。潮が引いたら逃げれば良いというのは大きな間違いである。津波が来る前にすぐに避難して命を守ってほしい**と話した。

次に、喜界消防分署の原田署長が「マグニチュード8.2の地震が起きた場合、浦原、先山には5分から6分後に津波が来ることが予想されている。**強い揺れを感じたら警報を待つことなくすぐに避難してほしい。自分の命は自分で守ることが大事。**」と話し、その後、消防職員による消火器の使い方や消火訓練、要救助者の搬送要領の実演が行われた。



また、今回初となる喜界島通信所と奄美警備隊による災害発生時、警備隊が到着するまでの情報収集伝達訓練を実施し、その情報を基に、孤立住民の救出訓練が行われた。集落で結成した自主防災組織による要支援者の高台までの避難訓練も同時に行われ、「（共助）自分たちの集落は自分たちで守る」意識を高めることができた。

会場には、災害時に使用する自衛隊の車両やジオパーク、消防団による簡易ベットやテントの展示があり、写真を撮ったりして楽しんでいた。また、炊き出し訓練として、奄美警備隊がカレーを作り、地域住民が配膳し皆さんに振る舞い長い行列ができていた。



喜界町では年に1回、集落での防災訓練を実施を計画している。
問い合わせは役場総務課防災係（☎ 65-1111）へ。